

盲目の点取り屋 ユスタスが来る

問合せ 「スポーツのまち」づくり課 (☎51・2367)

4月23日(火)、東京2020パラリンピックに向け、リトアニア共和国ゴールボール代表選手団が本市にトレーニングキャンプにやってきました。その中に、10歳の時に失明しながらもゴールボールとの出会いで人生が変わり、今では「盲目の点取り屋」と呼ばれ、活躍するユスタス・パジャラウスカス選手がいます。今回の特集では、ユスタス選手のゴールボールにかける想いを通じてゴールボールの魅力を紹介します。

やんちゃで元気いっぱいの子幼少期

1991年にリトアニアのヨニシユキス市で生まれたユスタス・パジャラウスカス。とても活発だったユスタスは、2歳上の兄といつも走り回って遊んでいたそうです。母親も「ユスタスはとても足が速く、捕まえるのがとても大変だった。」と幼少期を振り返ります。

父親と作業中に両目を失明

ユスタスの人生が変わったのは小学5年生の夏休み前でした。父親と倉庫で木の板を切断中、工作機の部品が外れ、ユスタスの両目を直撃。傷はとも深く、病院に着いた時には既に手遅れだったそうです。父親は当時のようすを「今でも思い出したくない。」と言葉を詰まらせるほど、家族にとって衝撃的な事故でした。

ゴールボールとの出会い

事故後、親元を離れ首都ヴィリニユス市の特別支援学校で生活を始めたユスタス。これまでとは全く違う生活に、生きる希望を失いかけていました。そんな中、リハビリの一環で、目を隠して鈴の入ったボールを転がす障がい者スポーツ「ゴールボール」に出会います。「始めた頃は競技として見れず、正直好きではな

かった。」と話すユスタスも次第に、ボールの転がる音や仲間の息遣いなどで位置や気持ちを理解する奥深さに惹かれていきました。そして、試合に出場し、勝つ喜びを知るにつれ、日増しにゴールボールの虜になっていきました。

ロンドンパラリンピックで感じた世界トップとの壁

国立大学に進学したユスタスは、スカウトされ、勉強の傍らゴールボールのプロチームに加入します。めきめき頭角を現し、21歳の若さにしてチームのエースにまで成長しました。その頃のリトアニア代表は、ロンドンパラリンピックで4位という好成績を収めるなどゴールボールの強豪国としての地位を築いていました。

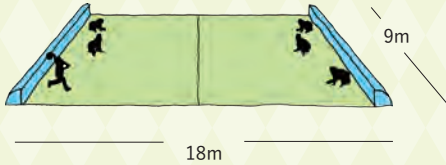


2012年ロンドンパラリンピック

ゴールボールってどんなスポーツ

POINT1

バレーボールと同じ9m×18mのコートに1チーム3人が入り、24分間戦います。



POINT2

アイシェードと呼ばれるゴーグルで目を隠し、何も見えない状態で競技をします。



POINT3

バスケットボールほどの大きさで、中に鈴が入った1.25kgのボールを転がし、相手ゴールに入れます。



障がい者スポーツとして始まりましたが、最近では健常者と障がい者が一緒にできる競技として親しまれています。

日本ゴールボール協会
理事 井田 剛さん



2016年リオ・デ・ジャネイロパラリンピック

盲目の点取り屋の誕生

しかし、ユスタスはリトアニア代表のボールのスピードや守備の身のこなし方などが世界のトップ選手に劣ると感じており、その壁を乗り越え世界一となることを人生の目標に掲げ、4年後のパラリンピックで金メダルを獲得するために努力し始めたのです。

てくるボールを横にした体に当てて止めますが、ユスタスのバウンドボールは大きく弾み、守備側の選手を越えていくため、止めることがとても難しいのです。ユスタスのバウンドボールの高さは世界のゴールボール界に衝撃を与えました。ドイツ代表の監督は「ユスタスのバウンドボールは誰にも止められない。」と頭を抱えます。

ユスタスは世界一という目標に向かって、毎日、ボールのスピードを上げるための筋力増強やフォームの改善など、厳しいトレーニングを続け、ついに世界最高のバウンドボールを身に付けました。ゴールボールに使うボールは弾みにくいいため、守備側は転がった

そして、ユスタスのひたむきで自分に厳しい姿勢はチームメイトにも影響を与えました。ここからリトアニア代表の快進撃が始まります。2015年の世界選手権では初優勝、2016年リオ・デ・ジャネイロパラリンピックでは金メダルを獲得しました。中でも、ユスタスの得点力は凄まじく「盲目の点取り屋」と呼ばれ、世界中のチームから恐れられるようになりました。

リオの感動を、もう一度

リトアニア代表は筋力トレーニングやチーム内のコミュニケーションの取り方など練習を重ね、東京2020パラリンピックへ向けて調子を上げてきています。ユスタスは「東京で世界中の人に最高のパフォーマンスと感動を届けたい。」と日々厳しい鍛錬を積んでいます。

逆境を跳ね返すほどの明るさ
チームのムードメーカー

マンタス ブラザウスキス(28)

合宿では多くの豊橋の方と
ゴールボールを通じてコミュニ
ケーションを取りたいです。

190cmを越える身長をいか
した守備を、ぜひご
覧ください。



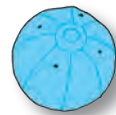
歌うゴールポラー

ミンドウガス スチョヴェユス(31)

作曲をするのが趣味なので、リトアニアの
歌を豊橋の方に聞いてもらったり、一緒に
歌ったりしたいです。プレー中は静かにす
る必要がありますが、得点した際には大き
な声援を送ってください。



リトアニアゴールボール 代表選手団



ユスタスとともに戦うリトアニアゴールボール代表選手から、
豊橋でのトレーニングキャンプへの意気込みや想いを伺いました。



2006年から代表を支える
チームの大黒柱

ネリユス モントヴィーダス(35)

トレーニングキャンプを
通じて、日本の気候や食
べ物に慣れたいと思っ
ています。試合では視界を
塞いだ中でのチームの意
思疎通にも注目してくだ
さい。

理論と情熱を兼ね備えた
世界最年少ヘッドコーチ

シャルナス ユクナ(25)

東京2020パラリンピック
へ向けてチームの若返り
を図りました。エネルギッ
シュなプレーをしますの
でご声援お願いします。





リトアニア代表 選手団を応援しよう

ユスタス率いるリトアニア代表選手団が豊橋にやって来ます。みんなで応援しましょう。



ゴールボールの試合の見どころ



静寂の中での音の駆け引き

視界を塞いでいるため、ボールの中にある鈴の音だけを頼りに距離感を把握します。攻撃側は、投球しない選手が大きな足音を出して惑わしている間に静かにボールを転がすなど、音の駆け引きが行われます。



時速 70km の豪速球

世界のトップ選手が転がすボールの速度は時速 70km にもなります。目が見えない状態で転がってくる 1.25kg の豪速球を体に当てて止める守備側の強靱な肉体と強い精神力にも注目です。



選手同士の連携プレー

選手は守備の際、相手チームが出す音を 3 人で聞き分け、選手の位置、ボールの出所を「右」「左」「4m」などと声を掛け合い共有します。3 人の連携プレーは視界を塞いでいることを観客側が忘れてしまうほどです。



ゴールボールに触れ、リトアニア代表選手団を応援しよう

リトアニア選手団 トレーニングキャンプ

ゴールボール 体験会

とき 4/27 (土) 10:30 ~ 11:30

定員 60 人 (先着順)

親善試合 日本代表 対 リトアニア代表

とき 4/27 (土) 14:00 ~ 15:00

定員 2,000 人 (先着順)

[共通事項]

ところ 総合体育館

問合せ 「スポーツのまち」づくり課



下記 QR コードからゴールボールの動画を見て応援に役立てよう。



「スポーツのまち」づくり課
大桑 裕輔